

# 令和5年度 事業報告



## 千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材を養成する。



本学は、複雑な社会を生き抜ける術・知・技能と豊かな人間性を備えた人材を輩出することを目的として、「健康で安全・安心な社会の構築に寄与できる人材の養成をすること（教育目標）、それらの探究を進めること（研究目標）、地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画すること（社会貢献の目標）」を目標としてきました。

2016年に「10年後における千葉科学大学のあるべき姿（将来像）」として「CIS Vision 2026（中期目標を含む）」を設定してから5年が経過した際に、大学を取り巻く社会情勢・高等教育機関に対する要望等の変化を受け、「CIS Vision 2026」の見直しを行い、令和4年度より引き続き【Ⅰ】教育・研究の推進、【Ⅱ】学生の支援、【Ⅲ】地域社会との連携、【Ⅳ】国際化の推進、【Ⅴ】DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進、【Ⅵ】ガバナンス体制と内部質保証システムの6項目を柱とした中期計画に基づいた事業計画を策定し、以下の通り実施いたしました。

- I. 教育・研究の推進** 教育においては、アセスメント・ポリシーに基づき、大学の三つの方針の適正性を見直し・点検を行いました。また、学修ポートフォリオ等を活用し、学生個々の学修成果の可視化を促進しました。研究活動においては、地域社会と連携した研究を推進するとともに、外部資金獲得に向けた組織的なサポート体制の下、迅速かつ効率的な情報共有を図りました。
- II. 学生の支援** 早期合格者への入学前教育では、昨年度に引き続き高い受講率となり、リメディアル教育「まなび場」では、昨年度構築した学修支援体制を継続・強化し、学生への支援を行いました。各種国家資格に対する支援については、様々な取組を行った結果、一部の資格においては昨年度と比較し合格率が向上する結果となりました。
- III. 地域社会との連携** 地域社会と連携し地域の防災等の危機管理、地域課題の解決に向けた研究・プロジェクトに積極的に参画し、「地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくり」の実現に向け自治体及び関連団体等との連携強化に努めました。
- IV. 国際化の推進** 教育提携を結んでいない日本語学校へ訪問し、大学説明やオープンキャンパスの周知などの広報活動を行いました。また、留学生の日本語支援については、日本語能力試験 N2以上の資格取得状況や留学生の履修状況の確認・把握を行い、「日本語スキルアップ講座」を開講し受講しやすい環境を整えました。その結果、N1受験者数が過去最多を更新しました。
- V. DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進** ICT教育推進部会を総合学習・日本語支援センター内に設け、ICT教材のマニュアル作成、学習支援システム(Moodle)の管理運用、オンライン授業推進策の検討を行いました。
- VI. ガバナンス体制と内部質保証システム** 機関別認証評価受審に向けて、自己点検・評価委員会にて抽出された課題について、改善を行いました。また、令和7年度受審予定の日本看護学教育評価機構の分野別認証評価受審に向け、評価項目に対する取り組み状況の把握や、評価プロセス等について情報を共有し、受審に向けた準備体制の整備を行いました。

千葉科学大学 学長 東 祥三

## I. 教育・研究の推進

### 1. 教育の質保証に関する目標

教育の質保証を目指した教学マネジメントを適切に機能させ、学生の多様なニーズ、時代の変化に対応した教育プログラムの充実を図り、学生個々の将来的目標の実現に寄与できる教育体制を構築する。

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【1-1-1】 1.アセスメント・ポリシーに基づいた「三つの方針」の点検	(1) アセスメント・ポリシーに基づいた「三つの方針」の適正性の評価	<b>【薬学部】</b> ・学部内の自己点検・評価委員会においてアセスメント・ポリシーのチェックリストに従って「三つの方針」の適正性の評価を行う。	・2022年度に外部評価機関である薬学教育評価機構からの指摘も踏まえ、2023年5月にアセスメント・ポリシーチェックリストの改定を行った。薬学部自己点検・評価委員会において同チェックリストを用いて「三つの方針」の適正性の自己点検・評価を行い、千葉科学大学自己点検・評価委員会でも点検・評価を行い、適正性を確認した。	A
		<b>【危機管理学部】</b> ・学部における自己点検・評価委員会においてアセスメント・ポリシーに基づき「三つの方針」の適正の評価を行う。 ・進級時、春・秋学期終了時における学生の成績及び授業アンケートを踏まえて学生の理解度、進展度を適正に評価すると同時に、成績不振学生の実態調査・分析を詳細に行い、DPに到達し得るように個別指導を徹底して行う。 ・学科ごとに各コースの科目や講義内容を見直し、必要な修正を行う。	・第2回学部自己点検・評価委員会においてアセスメント・ポリシーに基づき「三つの方針」の適正性の評価を行った。 ・学修成果に係る自己評価アンケートについて、2・3・4年生は各学科で10月に分析評価、1年生については2月に分析評価し、結果を学部教授会で報告した。その後、アカデミックアドバイザー及び各チューター、ゼミの担当教員より個別指導を行った。 ・各学科において、教員の退職が生じた際に科目内容の見直しなどを行った。講義内容については、授業評価アンケートの内容を踏まえながら個別に修正や検討を行った。	B
		<b>【看護学部】</b> ・学部自己点検・評価委員会においてアセスメント・ポリシーに基づき3つの方針の評価を行う。 ・DP達成度は、ポータルサイトの学修ポートフォリオを活用し評価を行う。	・学部自己点検・評価委員会において、卒業生アンケート結果、就職先アンケート結果を参照し、アセスメント・ポリシーの見直しを実施した。また、「令和5年度年度計画フォローアップ」の中間評価を審議し、10月に見直したアセスメント・ポリシーに基づき、3つの方針の評価を行った。 ・全学で決まった方針に基づき、学生が記入したDP達成度をもとに、チューターが個別面談で評価を行った。	A

中期計画	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
(2)「三つの方針」に沿った教育課程の改善	<p><b>【薬学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DP及びCPに従い、かつ薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂にあわせて、教育課程の改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年2月に文部科学省より公表された「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に伴い、薬学部教務委員会及び薬学部教授会において、教育目標、「三つの方針」を含む教育課程の改定について議論し、2024年度入学生からの改善を図った。</li> </ul>	A
	<p><b>【危機管理学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代や社会、学生のニーズに合わせたコースを必要な学科の中に設置してきたが(危機管理学科の地球環境保全コース、動物危機管理学科のアニマルビジネスコースなど)引き続き実施する。</li> <li>・科目の改廃を適宜行う。(学部共通科目の見直しなどを実施してきたが、引き続き危機管理の素養を修得するための改廃を行う。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は一昨年度、昨年度に新たに設置したコース内容の確認と安定運用を主眼としたため、コースは従前どおりとした。各学科の学科会議において検討し、新たなコース設置は不要となった。</li> <li>・科目の改廃についても、各学科の学科会議において検討した結果、従前どおりとした。</li> </ul>	B
	<p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムと旧カリキュラムが混在するため、留年生がいる場合は支障がないように運用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生(旧カリキュラム)で、必修単位を修得できなかった学生、休学した学生に対する履修計画を検討し、履修指導を行った。</li> <li>・実習と重複する必修科目について、定期試験受験資格が得られるよう科目責任者とともに、休講補講の調整を行った。</li> <li>・新カリキュラム開始となった2022年度から継続して学科の時間割を設定し、旧カリキュラム入学者の学修の機会を保証している。</li> <li>・実習前提条件を修得できない旧カリキュラムの学生に対し、新カリキュラムの運用と並行して旧カリキュラムの実習時期やグループ、実習施設の調整を行った。</li> </ul>	A
(3)「三つの方針」に沿った入試制度の検討(「経営基盤安定化に関する目標」と同一)	<p><b>【薬学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学における入試区分ごとの入学者の割合は総合型選抜や学校推薦型選抜で合格した者が多い傾向にあることから、それらの選抜方法においてAPにかなう人物であるか判断するため、質問内容や調査書等の活用方法について見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉科学大学入試委員会において、アドミッション・ポリシーと大学入試選抜方法との整合性を確認した結果、面接試験を含む総合型選抜等については適合との判定がなされた。しかしながら、面接試験を実施しない一般選抜方式については概ね適合と評価され、今後改善する必要があるとの指摘があった。</li> </ul>	B

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
		<p><b>【危機管理学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜及び各種推薦入試においては、志願者から提出された学修計画書や志望理由書等の活用と、共通質問と各学科の特性にあわせた独自の質問が組み込まれた面談により適格者の選考を行う。</li> <li>・学部自己点検・評価委員会により、入試制度別応募者数、合格者数、定員充足率等を分析し、「三つの方針」に沿った試験内容等になっているかを含めた見直し、検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通質問は、必ず危機管理に関する内容を入れる（あなたにとって危機とは何か、最近感じた危機は何か、といった質問を入れる）ように務めることで選考を行った。今後とも工夫しながら対応していく。</li> <li>・学部自己点検・評価委員会において見直し・検討を実施したが、学部全体（4学科すべて）で入試種別と定期試験の相関分析はできなかったため、次年度に実施することとなった。</li> </ul>	B
		<p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試結果、入学者アンケート、入学者の学力等を把握し、APとの整合性を分析する。効果的な入学者確保策を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度新入生アンケートを実施し、志望動機、志望時期、利用した大学行事及び大学情報サイト等を把握した。</li> <li>・入学者の入試方法、出身地のデータから、入学者の傾向を把握し、年内入試受験者の増加に向けて、入試広報活動を実施した。</li> <li>・入学者の学力の把握については、「人体のしくみとはたらき」についてのマークシートテストを実施し、学力と入試区分の関連を分析した。</li> </ul>	A
<p><b>【1-1-2】</b> 2. 学生の学修成果・教育成果の把握</p>	<p>(1) 学生個々の学修成果・教育成果を把握するためのシステムの構築 （「DX・デジタル技術の推進に関する目標」と同一）</p>	<p><b>【薬学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来から行っているアカデミックアドバイザーによる学生一人ひとりの成績管理を継続する。</li> <li>・令和5年度入学生からは学習計画表の作成など、チューターによる目標管理を新たに実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックアドバイザーによる成績管理を継続して実施した。さらに、保護者に授業への出席率を含む成績一覧表を送付し、保護者にも学生の学業状況を把握してもらう取り組みを行った。また、DXに対応するため、保護者からの要望があればメールにて同情報を送付している。</li> <li>・学部独自の学習計画表は作成せず、大学全体として運用を開始した学修ポートフォリオシステムを代替使用して目標管理を行なった。</li> </ul>	A

中期計画	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
	<p><b>【危機管理学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックアドバイザーを中心に、学生の学修成果の状況を把握する。</li> <li>・各チューター、各科目担任による個別管理を厳格に実施していく。</li> <li>・個別面談又はアンケートを学期毎に行い、理解不十分な内容を確認し、必要であれば補講を行う。進捗管理を適切に行い、習熟の度合いに応じて、学生に適切なアドバイスを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科とも、アカデミックアドバイザーが学期初めのオリエンテーションなどでカリキュラム・ポリシーなどについて説明し、その後、各チューターによる個別面談時に学生の学修成果の状況を把握し、学科会議等を通じて共有化を図った。</li> <li>・各チューター、各科目担任による個別管理を厳格に実施し、各学科会議で個別学生の状況を共有し対応した。引き続き、チューター、各科目担当による連携を行っていく。</li> <li>・定期的に各チューター、ゼミ担当教員が面談を行い、特に国家試験対策関連では計画的な模擬試験の実施などを行った。引き続き、チューター、ゼミ担当教員が随時適切なアドバイスをを行い、その内容は学修ポートフォリオに記載し、記録することで今後の指導に役立てるようにした。</li> </ul>	A
	<p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学が構築するポータルサイトを活用した学修ポートフォリオを活用して DP 達成度を把握する。</li> <li>・チューターは年2回の個別面談時にポータルサイトで学生の教科ごとの成績を把握し、個別指導に活用する。</li> <li>・領域実習前に教務委員会が学生の GPA 一覧表を作成し、実習グループ編成に活用する。</li> <li>・DX 教育導入の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルサイトを活用した学修ポートフォリオで DP 達成度を把握した。</li> <li>・チューターは、年2回の個別面談時にポータルサイトで学生の教科ごとの成績を把握し、個別指導に活用した。</li> <li>・3年生秋学期開始の領域別実習グループ編成にあたり、春学期の成績を活用した。</li> <li>・演習科目では、シミュレーションモデルの使用、授業中のビデオ撮影、疑似体験ゴーグル（VR）等を活用し実施した。</li> <li>・電子教科書の導入に向けて、情報収集を行い、一部の科目では2024年度から電子教科書を導入することとなった。</li> <li>・領域別実習前の CBT モデル校となり、学生に対し年度末 CBT 実施の準備を進めた。</li> <li>・紙媒体の配布資料の使用を減らし、Office365、teams、電子ノートを使用した講義を展開している科目が増えた。</li> </ul>	A

## 2. 研究の推進に関する目標

外部資金獲得の環境が整備され、地域社会における様々な産官学連携プロジェクトの中核を担うことが出来る研究を推進する。

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【1-2-1】 3.外部資金獲得のための組織的サポート体制の構築	(1) 研究助成金を獲得するための申請書のブラッシュアップ制度の構築	・研究助成金を獲得するために役立つ情報を、外部又は関連設置校から収集し、制度構築のための準備を行う。	・研究助成金の獲得に役立つ情報の周知方法に関して検討をすすめ、迅速さ、抜け漏れ低減、遡っての検索がしやすくなる方法を探り、情報の共有を行った。	B
【1-2-2】 4.地域社会と連携した研究の推進	(2) 地域の危機管理、地域課題解決に向けた研究を推進（「地域社会との連携に関する目標」と同一）	・地域貢献に役立つ研究公募情報があれば学内に周知する。地域の危機（防災や高齢者の健康等）を意識した市民公開講座を継続する。さらに銚子商業高等学校の生徒向けの講座を開講する。	・地域貢献に役立つ公募情報を学内に周知した。地域の危機（防災や高齢者の健康等）を意識した市民公開講座を実施した。銚子商業高等学校等へ個別に講座の紹介をするだけでなく、千葉県、銚子市、銚子商工会議所からHP等によるご協力を仰ぎ、本学の研究分野を地域に広く周知することができた。また、地元の自然環境等に関する研究を継続するとともに、千葉県、神栖市及び千葉県産業振興センター等と意見交換及び情報交換を行った。	B

## II. 学生の支援

### 1. 学生支援に関する目標

本学の学生に対する学習面・生活面・就職面などのあらゆる面において、強力な総合支援体制を整備・充実する。

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【2-1-1】 1. 学生の修学に関する支援	(1) 入学前教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の継続の観点から、早期合格者（1月まで）の入学前教育の受講率 95%以上を達成する。</li> <li>・入学前教育と初年次教育の連動性を更に高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期合格者（専願入試）の入学前教育（総合学習・日本語支援センター事務課実施：入学予定者全員無料の課題提出添削）の受講率が 90.3%であった（昨年度 94.5%）。今後も引き続き、受講率の向上を目指す。</li> <li>・昨年度、業務委託にて実施している入学前教育の必須講座を刷新した。更に入学前教育の充実及び促進につなげるために、入学前教育の案内を刷新した。</li> </ul>	B

中期計画	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
(2)リメディアル教育、橋渡し教育等学修支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的な体制については、共通基礎教育WG（教育研究担当副学長、医療・動物系のアカデミックアドバイザー、総合学習・日本語支援センター及び事務課）にて体制の点検、再構築及び具体策の実施を行う。</li> <li>・令和4年度までに構築した、各学科のアカデミックアドバイザーとの学修支援体制のもと、具体的な支援を実施する。令和5年度以降も課題等の抽出は引き続き実施し、必要に応じて支援内容の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学全体に関わる共通基礎教育WGは実施されなかった。各学科により課題は異なること、迅速で柔軟な対応が望まれるので、総合学習・日本語支援センターでは検討の要望があった学科担当者（担当教員、アカデミックアドバイザー）と打合せを行なった。</li> <li>・左記の検討要望があった学科において、アカデミックアドバイザー、初年次科目担当教員、総合学習・日本語支援センター事務課職員（元高校教員）及びセンター教員等で課題を共有し、元高校教員の知見を活かしたリメディアル教育を含む初年次学修支援の具体策を検討し、令和6年度から保健医療学科（臨床検査コース）及び動物危機管理学科は1年次の化学において、本学独自の学修支援策「まなび場（自学自習の学習行動に誘う演習）」を空きコマに固定して授業に連動した体制で実施する予定となった。また、授業改善等を目的に、今年度から教員に対し高等学校の授業見学を促したり、新任教員研修として、総合学習・日本語支援センター事務課職員（元高校教員）を講師に大学と高校の授業の違いについての説明等、より効果的な初年次教育の展開に繋がる取組を実施した。</li> </ul>	B
【2-1-2】 2.学生の生活に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)学生のメンタルに関する支援体制の構築・拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートが必要な学生について早期発見が重要と考えられることから、健康診断の際に新入生全員の面談を公認心理士と共に実施し、サポートや注意が必要な学生の情報を学務委員会にて学科長に周知し、情報共有を行うことで学生サポートに繋げる。</li> <li>・健康診断の面談で必要に応じてカウンセリングに誘導し、詳しい状況把握に努める。いずれも令和4年度まで継続して実施し成果が出ていることから令和5年度も継続する。</li> </ul>	A

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【2-1-3】 3.学生の キャリア 形成に関 する支援	(1) 学部・ 学科、学年 に即した就 職支援の実 施	<p>①資格等取得の支援体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度事業計画における資格取得に係る希望調査については、継続した学生のニーズ調査の観点から継続して実施する。近年多発する自然災害などで社会のニーズが高まっている防災士資格について、従来から取得を推奨していた危機管理学部だけではなく、薬学部の学生にも取得を推奨するとともに、受講費用等の補助も含めて支援を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理学部の学生を対象に資格取得に係る希望調査を実施し、調査結果から学生のニーズが最も高かった大型自動車運転免許取得に係る補助を策定した。防災士資格の支援については、令和6年度も引き続き検討していく。</li> </ul>	C
		<p>②各学部、学科毎の業種別就職状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主に危機管理学部3年次学生を対象とした進路希望調査を秋学期に実施し、学科と希望就職先とのミスマッチがないかチェックする。ミスマッチが発見された場合は、該当学生と面談を実施し指導を行う。</li> <li>就職試験対策として、現在危機管理学部と看護学部の希望者に実施している就職能力検査を薬学部の希望者にも実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理学部3年生を対象とした進路希望調査を実施した結果、学科と学生の希望就職先のミスマッチは散見されなかった。</li> <li>危機管理学部と看護学部の希望者には実施したが、薬学部は希望者がいなかったため実施できなかった。</li> </ul>	B  C



中期計画	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
	<p>③国家試験合格率</p> <p><b>【薬学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の学生に応じた学習指導を実施することで新卒者の国家試験合格者を増やす。新卒合格者を全国平均並みの80%に引き上げることを目指す。</li> <li>・1年次の生物学、機能形態学のシラバス、教科書、教育手法等を一新し、2年次の薬理学、薬物治療学へと結びつかせるなど、低学年次の教育を充実させることで基礎となる学力及び進級率の向上を図る。</li> <li>・国家試験の必須問題は3年次までの講義内容で相当の割合を網羅できるため、4年次のCBT前から国家試験の必須問題を反復学修させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チューターやアカデミックアドバイザーを通じて国家試験に対する学生への個別指導及び意識改革を行ったが、十分に變えることができず。新卒合格者を全国平均まで引き上げることができなかった。</li> <li>・生物学、機能形態学をはじめ他の基礎科目についても講義内容やフォローアップ方法などを見直した結果、成績不良による1年次の留年者はゼロとなった。</li> <li>・国家試験の必須問題を組み込んだ習熟度テストを4年次に毎月実施し、反復学習に努めた。</li> </ul>	<p>D</p> <p>A</p> <p>A</p>
	<p><b>【危機管理学部保健医療学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験（臨床検査技師、臨床工学技士、救急救命士）の合格者を全国平均以上にすることを旨とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査技師：受験者数20名、合格者数14名、合格率70.0%であり、全国平均（合格率88.0%）以上を目指したが達成することができなかった。</li> <li>・臨床工学技士：受験者数16名、合格者数12名、合格率75.0%であり、全国平均（合格率79.5%）以上を目指したが達成することができなかった。</li> <li>・救急救命士：受験者数28名、合格者数21名、合格率75.0%であり、全国平均（合格率97.0%）以上を目指したが達成することができなかった。</li> </ul>	<p>C</p>

中期計画	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験を定期的に行い、個々の学生の到達度や教科・分野別の弱点等を把握し、それらを基に個別指導を行うことで、集中的でより効果的な国家試験対策を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度行ってきた国家試験対策は3コースで異なるが、基本は模擬試験の頻回の実施、国家試験対策講座からなり、各コースともゼミごとにグループ学習を行った。また、頻出されるテスト問題の復習を重視し、重要事項が短期記憶ではなく、長期記憶になるように努めた。国家試験までに、現存の模擬試験・過去問が100%近く解けて問題を解説できるように学生自身の目標を設定させて実践した。その結果、従来行ってきた試験問題の解答・解説、国家試験対策講座がより効果的に実施することができた。</li> </ul>	A
	<p><b>【危機管理学部動物危機管理学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護師の資格が民間資格である「認定動物看護師」から国家資格の「愛玩動物看護師」となったことにより、今まで構築した支援体制を国家試験対策支援体制として強固にする。</li> <li>・動物看護担当教員研究室を中心に国家試験対策講座を運営する。</li> <li>・国家試験対策講座は3年次から講義の一貫として実施し、4年次も同様の講義に参加する。</li> <li>・いつでも学習できるようにCBTを利用し、練習問題及び定期的な模擬試験の配信を行う。</li> <li>・少人数の体制である本学の特徴を生かし、個人の教科別弱点を個別指導し学力の向上を図る。</li> <li>・卒業生に対しては、在学学生で実施している直前対策講座を受講させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで構築した支援体制を国家試験対策支援体制として内容を大幅に変更し、対策講座を実施した。その結果、愛玩動物看護師の試験結果は、受験者数9人、合格者数8人、合格率88.9%であり、全国平均（合格率79.8%）を上回った。</li> <li>・対策用教科書、参考書が豊富な動物看護担当教員研究室で、国家試験対策講座の準備講座を運営し、所属する3・4年生全員、対策講座を受講させた。</li> <li>・国家試験対策講座は、3年次から講義の一貫として実施し、4年生も同様の講義に参加させた。</li> <li>・国家試験対策講座と並行して模擬試験をCBTで配信して実施している。また、回答率80%以上を合格とし、合格するまで実施するよう指導した。</li> <li>・通常の対策講座に加えて、少人数の体制である本学の特徴を生かし、個人の教科別弱点を踏まえた直前対策講座を実施した。</li> <li>・卒業生1名が直前対策講座に参加した。対策講座の資料及び動画撮影したものを定期的に共有し、在学学生と同様の対策を実施した。</li> </ul>	A

中期計画	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
	<p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年、2年次春、秋学期のガイダンスで養護教諭・保健師の仕事の説明と、取得方法の説明を行う（養護教諭は令和3年度入学生まで）。</li> <li>・初年次教育、2年次の公衆衛生看護学の授業内で卒業した先輩の話を聞く会を設ける。</li> <li>・初年次教育では、国家試験合格率向上のカギとなる解剖生理学等専門基礎科目の修得を図るため生物学力テストの実施、専門基礎教育科目の補講、学年全体に対する試験対策指導、低得点者の個別指導、夏季休暇時の課題提示と確認、課題のフィードバック、秋学期開始時の化学学力テスト、低得点者の補講を実施する。</li> <li>・3年生にスタートアップ教育講座1回、就職ガイダンスを2回実施する。</li> <li>・1年次からの国家試験対策を積み上げ、学生の能力にあった指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次春学期の新入生研修、2年次春学期ガイダンス時に養護教諭・保健師の仕事の説明と、取得方法の説明を行った。</li> <li>・公衆衛生看護方法論Ⅰの授業内で、保健師として活躍している1期生をゲストスピーカーとして招聘し、講義を実施した。</li> <li>・初年次教育では、国家試験合格率向上のキーワードとなる解剖生理学等、専門基礎科目の修得を図るため、「人体のしくみとはたらき」のテストの実施、学年全体に対する試験対策指導、低得点者の個別指導、夏季休暇時の課題提示と確認、課題のフィードバックを実施した。</li> <li>・新カリキュラムから、「からだの構造と機能演習」科目で専門基礎教育科目の強化を行い、低得点者に関する情報共有を行った。</li> <li>・3年生にスタートアップ教育講座1回、就職ガイダンスを2回実施した。</li> <li>・1年次秋学期、2年次春・秋学期、3年次春・秋学期、4年次春学期のガイダンス時に学内模擬試験を実施し、国家試験対策の学修方法の確認と学習指導を実施した。</li> <li>・4年次8月～12月に業者模擬試験を6回実施し、学習指導を必要とする学生に国家試験対策委員会及びチューターによる個別指導を実施した。また、保護者に学生の成績を11月、1月に通知し、学修支援を教員と協力して実施した。</li> </ul>	A

### Ⅲ. 地域社会との連携

#### 1. 地域社会との連携に関する目標

地域社会における様々な産官学連携プロジェクトの中核となり、地場産業の振興や人材の育成に寄与する。

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【3-1-1】 1.地域社会と連携したプロジェクトへの参画	(1)自治体又は地域業界団体のプロジェクトへの積極的参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパンチャレンジャーアワードなど、市が関連し、学生及び教職員が関わることで地域の活性化や成長につながるものについて協力する。千葉県からのキャンペーンの周知等の依頼についても協力する。</li> <li>・地域の商業水産施設ウオッセ 21 の一角のスペースを工夫して、観光客等のくつろぎの空間を提供する。</li> <li>・千葉県警察本部のサイバーテロ対策協議会及び銚子警察署のTDC 対策ネットワーク Choshi に会員として引き続き参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子市が関連する日本ジオパーク大会などのイベントに学生及び教職員が関わることで地域の活性化や成長につながるものについて協力した。千葉県からのキャンペーンの周知等の依頼についても協力した。</li> <li>・地域の商業水産施設ウオッセ 21 の一角のスペースを工夫して、観光客等のくつろぎの空間を提供した。</li> <li>・千葉県警察本部のサイバーテロ対策協議会及び銚子警察署のTDC 対策ネットワーク Choshi に会員として引き続き参画した。</li> </ul>	B
	(2)地域の危機管理、地域課題解決に向けた研究を推進（「研究の推進に関する目標」と同一）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献に役立つ研究公募情報があれば学内に周知する。地域の危機（防災や高齢者の健康等）を意識した市民公開講座を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献に役立つ研究公募情報を学内に周知した。地域の危機（防災や高齢者の健康等）を意識した市民公開講座を継続して実施した。</li> </ul>	B

## IV. 国際化の推進

### 1. 国際化の推進に関する目標

留学生のトータル的サポート体制を構築し、地域の国際拠点として、日本国内で活躍できる人材となる外国人留学生を育成する。また、グローバルマーケットを見据え、地域社会と共同した「グローバル人材養成」等を推進する。

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【4-1-1】 1.留学生受入に向けた取組	(1)一定の日本語力を持った留学生受入に向けた国内日本語学校との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育提携を結んでいない日本語学校を訪問するとともに、協定に基づく連携プログラムの構築を検討する。</li> <li>・日本語学校への訪問により、在学生の状況、入試・オープンキャンパス情報などを定期的に報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育提携を結んでいない学校を含め、大学近隣の千葉県、茨城県、東京都、埼玉県、神奈川県のほか、静岡県、宮城県、長野県の日本語学校約160校を訪問した。本学在学生の出身日本語学校では在学生の状況報告、新規の日本語学校では留学生の入国状況や学生数の聴取、大学案内・オープンキャンパス案内を行った。なお、教育提携校との協定に基づく連携プログラムの構築については検討中である。</li> </ul>	B
	(2)附属高等学校との高大連携授業の開設等、連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6科目（VOD科目）以上の開講を予定する。</li> <li>・定期的に高大連携運営会議を開催し、協定に基づいた具体的な連携内容の検討を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携講座として「化学入門」を開講した。今後、開講科目を増やすため、科目を選定予定である。</li> <li>・令和5年度は開催できていない。今後、具体的な連携内容を推進するために、当該運営会議を開催し、検討する予定である。</li> </ul>	D
【4-1-2】 2.留学生の学修・生活支援に向けた取組	(1)留学生に対する日本語支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の日本語支援体制の更なる改善に努める。</li> <li>・留学生の日本語能力試験（JLPT）等の受験体制強化（構築）のため、日本語授業に出席する留学生1～3年生の意向調査や現在の取得状況を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に、留学生の日本語支援体制は構築できしており、体制の維持と活動を着実に継続するとともに、本学の日本語教育支援体制を更に強化する。</li> <li>・今年度、日本語科目の授業後に留学生1～3年生の意向調査や現在の取得状況の把握を行った。また、毎年度、春・秋学期に日本語能力試験 JLPT（N1、N2）対策講座（日本語スキルアップ講座）を7月及び12月の JLPT 試験日前に短期集中で実施した。なお、対象者には事前にアンケート等で受講しやすい空きコマを調査し、日程を調整した上で実施したことで N1 受験者数が過去最多を更新した。また、今年度から、全学的に JLPT 成績優秀者（N1 合格者）の表彰を春・秋学期オリエンテーション時に行った。今後、毎年度、春・秋学期の学科オリエンテーションにて継続する。</li> </ul>	B

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
	(2) 留学生の留学生生活支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生一人ひとりにきめ細かな個別支援を行えるよう、グローバルセンターとチューターとの連携を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、在留資格の期限が近づいている学生に対し、期限までに更新手続きをするようメールにて通知した。また、病気やケガ、事故などトラブル発生時は、通訳も含めグローバルセンター事務課が窓口となり、事案についてはその都度、チューターと情報を共有して、留学生生活の支援を行った。12月には留学生チューターのほか、各関係部署や教員を集め、留学生との意見交換会を実施し、留学生からの意見や要望、質問などに回答した。</li> </ul>	B
【4-1-3】 3. 留学生就職支援に向けた取組	(1) 日本国内就職に向けた留学生に対する積極的な支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生の採用を行っている企業の開拓を所属学科の教員と協働できる体制を構築する。</li> <li>求人検索システムを留学生も利用しやすいように改修する。</li> <li>3年次に進路希望調査を実施し、日本国内で就職を希望する留学生に対し就職ガイダンスを実施する。</li> <li>企業懇談会に積極的に参加し、留学生を新規に受け入れてくれる企業を開拓する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理学科教授及び教学支援部参与の2名で留学生を採用しているセンコーグループホールディングス株式会社（東京都）を訪問した。</li> <li>現在、使用している求人検索システムの求人ナビは、株式会社ジェイネットに外注で委託しているものであるが、どのような形が留学生にとって利用しやすいのか課内で模索中であり、令和6年度以降も継続して検討する。</li> <li>進路希望調査を実施し、日本国内で就職を希望する留学生に対し、就職ガイダンスを実施した。</li> <li>キャリア支援課員が企業懇談会等に参加し、日本人、留学生を採用する企業と情報交換を行った。</li> </ul>	B
	(2) 地域社会と共同したグローバル人材養成の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内で留学生の採用を行っている企業の開拓を所属学科の教員と協働できる体制を構築する。</li> <li>求人検索システムを留学生も利用しやすいように改修する。</li> <li>3年次に進路希望調査を実施し、日本国内で就職を希望する留学生に対し就職ガイダンスを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は所属学科の教員と協働体制を構築することができなかった。令和6年度以降、引き続き構築に向けて準備を整える。</li> <li>現在、使用している求人検索システムの求人ナビは株式会社ジェイネットに外注で委託しているものであるが、どのような形が留学生にとって利用しやすいのか課内で模索中であり、令和6年度以降も継続して検討する。</li> <li>進路希望調査を実施し、日本国内で就職を希望する留学生に対し、就職ガイダンスを実施した。</li> </ul>	D

## V. DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進

### 1. DX・デジタル技術の推進に関する目標

デジタル技術を活用した教養教育、リメディアル教育の推進、社会人へのリカレント教育を推進。また、学生情報を一元管理し、学修成果ポートフォリオの導入等、学生の学修成果の評価に活用する。

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【5-1-1】 1.学生の学修成果・教育成果の可視化	(1)学修成果・教育成果可視化に向けたシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学修成果に係る自己評価アンケート」を各学部・学科で実施し、DPの到達度に関する学生の自己評価及び過去1年間の振り返り、今後1年間の目標設定を回答させる。</li> <li>ポータルサイトの「面談記録」の機能を「学修ポートフォリオ」として運用し、「学修成果に係る自己評価アンケート」の結果を用いた「リフレクション面談」を春学期に行い、その結果等を学生にも公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学修成果に係る自己評価アンケート」を各学部・学科で実施し、DP到達度に関する学生の自己評価及び過去1年間の振り返り、今後1年間の目標設定を回答させた。また、学務委員会において、「学修成果に係る自己評価アンケート」に係る教育改善を学科別に報告した。</li> <li>ポータルサイトの「面談記録」の機能を「学修ポートフォリオ」として運用し、「学修成果に係る自己評価アンケート」の結果を用いた「リフレクション面談」を春学期に行い、その結果等を学生に公開した。</li> </ul>	A
【5-1-2】 2.教育コンテンツのデジタル化の推進	(1)教養教育、基礎教育のデジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>教養教育、基礎教育のデジタル化に向け、対象となる科目、デジタル化の方法について、検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の教科（全学科英語、薬学部基礎化学系科目等）で Moodle、YouTube を用いた講義教材や補助教材を提供し、実施している。また、総合学習・日本語支援センター内の ICT 教育推進部会にて、ICT 教材のマニュアル作成、学習支援システム(Moodle)の管理運用、オンライン授業推進策の検討と実施を行った。</li> </ul>	B
	(2)リメディアル教育のデジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>リメディアル教育のデジタル化に向け、対象となる科目、デジタル化の方法について、検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の教科（基礎化学系科目等）で YouTube を用いてリメディアル教育を含むデジタルの講義教材や補助教材を強化して提供し、実施した。また、センター内の ICT 教育推進部会にて、ICT 教材のマニュアル作成、学習支援システム(Moodle)の管理運用、オンライン授業推進策の検討と実施を行った。</li> </ul>	B
【5-1-3】 3.事務効率化を目指したオンライン化の推進	(1)事務手続きのペーパーレス・オンライン化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>リモートを考慮したタブレット端末、PCの導入等を促進し、稟議関係の電子化を検討していく。学園全体のシステム構成に関わるので法人本部、各設置校と連携していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稟議関係の電子化については、業者によるプレゼンテーションが行われ、導入について加計学園本部で検討中である。</li> </ul>	D

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【5-1-4】 4.学びの 多様性、リ カレント 教育に対 応した教 育の推進	(1)学びの 多様性、リ カレント教 育に対応し た教育課程 の検討	<b>【薬学研究科】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新薬学教育モデル・コア・カリキュラムでは研究能力のある薬剤師を養成することを求めていることから、主に本学の卒業生を対象に大学院の募集を行う。</li> <li>・4年制卒業の薬剤師を対象として、近隣の薬学部では運用されていないシムマン（高機能患者シミュレーター）を用いたフィジカルアセスメント教育を充実させ、臨床業務能力向上を図るプログラムを充実させる。</li> <li>・製薬企業及びその関連企業に勤務している薬剤師免許保持者を対象に実務に関する講義と実習のカリキュラムを設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度入学者は2名で、病院薬剤師と本学卒業生であり、改訂薬学教育モデル・コア・カリキュラムで求められた研究能力のある薬剤師の養成に寄与している。</li> <li>・日本薬剤師研修センター認定対象の集合研修会は開催したが、フィジカルアセスメント教育については受け入れ態勢が十分に整わなかったため、次年度以降に持ち越すこととなった。</li> <li>・研究科内での検討時間が不足し、実施することができなかった。</li> </ul>	<p>A</p> <p>D</p> <p>D</p>
		<b>【危機管理学研究科】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人向けの総合危機管理学コース及び医療マネジメントコースに対して、教育課程改善の必要性を検討する。</li> <li>・BP（職業実践力育成プログラム）及び専門実践教育訓練給付制度に対応した教育制度を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該コースの修了者に対して行った教育課程に関するアンケートでは、回収枚数が限定的であったものの、大きな問題は見当たらなかった。また、企業等への聞き取り調査では、日本臨床検査技師会より、科目等履修生の履修状況の開示が求められたが、公開はせず内容を連絡することとなった。また、総合警備保障株式会社（ALSOK）との聞き取り調査を行った。</li> <li>・本年度、社会人の入学生は8名（秋入学を含む）であり、専門実践教育訓練制度を5名の学生が利用している。危機管理学研究科事務室と連携し、案内や資料を配布し、滞りなく運用している。本年度初めて、当該制度を利用した学生が終了するため、引き続き注意深く対応していく。</li> </ul>	<p>B</p>



中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
		<p><b>【看護学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、看護学研究科の学生は100%社会人で構成されており、今後も積極的に社会人を受け入れていく中で、入学者増加につながる方策を検討する。また、本学の看護学部卒業生に対しても卒業時に研究科の紹介をするなど、今後の入学に繋げる方策を検討する。</li> <li>・修了生に対し、リカレント教育の場を設けるなど、終了後のサポート体制を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人の入学者増加につなげる方策として、近隣の施設への資料送付や訪問を継続した。その結果、次年度入学予定の4名は全員社会人であり、そのうちの1名は施設訪問がきっかけで研究科のゼミを体験したことが動機となった。また、本学看護学部卒業生の入学を啓蒙するため、オープンキャンパスの学部紹介に研究科紹介スライドの追加、研究科の紹介ポスターの掲示、学部卒業式での研究科長祝辞に学部生へのメッセージの追加、看護実践連携研究会に修了生の発表を追加するなどの活動を実施した。</li> <li>・修了生を対象に、リカレント教育として、研究科ゼミへの参加や看護実践連携研究会、研究科主催のFDへの参加を推奨した。また、資格試験や修士論文投稿のサポートの機会を設け、今年度は小児専門看護師（CNS）、認定看護管理者の資格試験にそれぞれ合格した。その他、学会発表や学会誌投稿のための支援も継続して実施した。</li> </ul>	A

## VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

### 1. ガバナンス体制と内部質保証システムに関する目標

大学の自律的なガバナンスの充実・強化、及びPDCAサイクルが適正に機能する実効性のある内部質保証システムを的確に機能させる体制を構築する。

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【6-1-1】 1.機動的・有機的連携が取れる事務組織の構築	(1) 機動的・有機的連携が取れる事務組織への改編	・令和4年度に設置したグローバルセンターと入試広報部を同じフロアにすることで、留学生に関しては募集広報から卒業時までワンストップでケアしていく体制を強化する。	・入試広報部とグローバルセンター事務課を危機管理学部棟1階の同じフロアにすることで、入学してきた留学生情報を共有して業務の効率化に繋げた。また、日本語学校へ訪問する際は、連携して募集広報を行い、出願書類に関しても協力して確認作業を行った。	A
	(2) 各組織の長の権限と責任の明確化	・事務部署において、大学事務局長及び次長、入試広報部、学務運営部、教学支援部の長の職務分掌を明確にし、可視化する。	・3月末に開催した部局責任者会議に大学事務局長、次長及び各部長の職務分掌の原案を諮り、令和6年4月から運用できるようにした。	C

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【6-1-2】 2.内部質保証システム	(1) 大学全体の内部質保証システム検証のための機関別認証評価の受審	・2024年（令和6年）の機関別認証評価受審に向け、学内の自己点検・評価手続き及び組織間の連携について見直しを行う。	・自己点検・評価体制について、構成員や各自自己点検・評価委員会規程の整備等、見直しを行った。	B
	(2) 学部・学科の内部質保証システム検証のための分野別認証評価の受審（薬学・看護）	・日本看護学教育評価機構の分野別認証評価に向け、看護学部と連携し、情報を収集する。	・評価項目（評価の視点）に対する現在の取り組み状況や評価プロセス等について学部長から情報を収集し、今後の役割分担や行動計画等については、次年度早々に関係者を交えて策定することとなった。	C

## 2. 教職員の能力開発・人材育成に関する目標

教職員に対する計画的で効果的な人材確保・育成を実践する。

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【6-2-1】 1.教員のFD活動、教職員のSD活動の組織的展開	(1) 大学全体、各学部におけるFD活動の組織的展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学全体でFDの開催数を増やし、3～4回以上実施する。</li> <li>・研修会等の録画を配信するなど、専任教員全員がFD活動に参加できるよう、環境整備を継続する。受講できていない教員には、定期的アナウンスし参加率100%を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部のFDは予定通り実施できたが、大学全体のFD研修会については2回のみ開催となった。</li> <li>・研修会の録画を配信し、専任教員全員がFD活動に参加できるよう、環境整備を継続した。受講できていない教員には、定期的アナウンスし、参加率アップを目指したが、参加率70%で目標を達成できなかった。</li> </ul>	C
	(2) 大学のビジョンに沿ったSD活動の組織的展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育・研究の推進」として研究倫理教育、外部講師による『(留学生を含む) 学生生徒の支援』に関する研修を予定している。</li> <li>・Zoom等を活用するなどして参加率増加を図り、教職員の資質、能力の向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による研究倫理教育は実施できていない。中国からの留学生が多いので、留学生を支援する研修として、日常の挨拶、簡単な会話ができるよう中国語の語学研修を開催した。</li> <li>・研修会の内容を録画し、参加できなかった方が受講できるようにし、参加率増加を図った。</li> </ul>	C

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【6-2-2】 2.法人本部と協働した人材育成の推進	(1)法人本部研修室の人材育成プログラムを活用した人材育成の推進	・未受講者に対して自己実現に向けて研修が有効な手段であることを伝え、参加を促す。参加者に対するアンケートにおいては、義務的あるいは受動的な態度で回答するのではなく、今後の研修が自らの能力を高め、組織にとっても有意義な研修となるよう、自身の考えやアイデアを積極的に回答するよう呼びかける。若手職員には、積極的に研修を受講させる。	・若手職員には各部署の長より、受動的に研修を受講するのではなく、研修を通して自らの能力を高めるため積極的に研修を受講するよう促した。	B

### 3. 経営基盤安定化に関する目標

教職員に対する計画的で効果的な人材確保・育成を実践する。

中期計画		令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
【6-3-1】 1.入学定員確保に向けた取組	(1)ウィズコロナを見据えた新しい広報活動の推進	・コロナの感染状況等を勘案しながら高校訪問を適宜行うとともに、コロナ禍に構築したオンラインでの個別相談等の他、Web 広告や動画・SNS など、様々なメディアを活用した非対面式の広報活動を強化し、本学の認知度の向上を図る。	・コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、通常の高校訪問などを再開したが、コロナ禍に構築したオンライン個別相談などは継続実施している。また、Web 広告や SNS など、様々なメディアを利用した広報活動は、昨年度以上に実施した。	B
	(2)「三つの方針」を踏まえた入試制度の検討(「教育の質的保証に関する目標」と同一)	(「1-1-1 (3) 教育の質的保証に関する目標」と同一の計画) 【薬学部】 ・本学における入試区分ごとの入学者の割合は総合型選抜や学校推薦型選抜で合格した者が多い傾向にあることから、それらの選抜方法において AP にかなう人物であるか判断するため、質問内容や調査書等の活用方法について見直しを行う。	・千葉科学大学入試委員会において、アドミッション・ポリシーと大学入試選抜方法との整合性を確認した結果、面接試験を含む総合型選抜等については適合との判定がなされた。しかしながら、面接試験を実施しない一般選抜方式については概ね適合と評価され、今後、改善する必要がある。	B

中期計画	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	評価
	<p><b>【危機管理学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科とも特性があるため、共通質問のほか学科独自の質問、作文の提出を求め、適格者の選考を行う。</li> <li>留学生への質問内容は日本語能力試験 N1、N2 を踏まえた質問を行うことで日本語の能力判断を適正に行う。</li> <li>学部自己点検・評価委員会により、入試制度別応募者数、合格者数、定員充足率等を分析し、「三つの方針」に沿った試験内容等になっているかを含めた見直し、検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科とも特性があるため共通質問の他、学科独自の質問として、例えば危機管理学科では日常の危機に関する意識や日頃のリスクマネジメントとして何を行っているか、といった質問を行い、作文の中でも各学科の志望動機や事前の認識が正しいか判断して採点を行い、適格者の選考を行った。</li> <li>日本語の能力判断を適正に行うため、面接の質問内容に日本語能力試験 N1、N2 に相当する危機管理に関する文章を 20 種類程度作成して、読ませることを取り入れた。</li> <li>学部自己点検・評価委員会において見直し・検討を実施したが、学部全体（4 学科すべて）で入試種別と定期試験の相関分析はできなかったため、次年度に実施することとなった。</li> </ul>	B
	<p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入試結果、入学者アンケート、入学者の学力等を把握し、AP との整合性を分析する。効果的な入学者確保策を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023 年度新入生アンケートを実施し、志望動機、志望時期、利用した大学行事、利用した大学情報サイト等を把握した。</li> <li>入学者の入試方法、出身地のデータから、入学者の傾向を把握し、年内入試受験者の増加に向けて、入試広報活動を実施した。</li> <li>入学者の学力は「人体のしくみとはたらき」についてマークシートテストを行い、結果を本人に返し学力と入試区分の関連を分析した。</li> </ul>	A
(3) 附属高等学校との連携を踏まえた積極的な留学生受入体制の構築（「教育の質的保証に関する目標」と同一）	<ul style="list-style-type: none"> <li>6 科目（VOD 科目）以上の開講を予定する。</li> <li>定期的に高大連携運営会議を開催し、協定に基づいた具体的な連携内容の検討を進める。</li> <li>附属高校からの受入れについて、入試においては附属高校特別選抜を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高大連携講座として「化学入門」を開講した。今後、開講科目を増やすため、科目を選定予定である。</li> <li>令和4年度に2回開催し、双方の情報交換等を行ったが、令和5年度は開催できていない。今後、具体的な連携内容を推進するために、当該運営会議の開催を検討する。</li> <li>附属高校特別選抜を実施し、入学者1名を確保した。</li> </ul>	D

主な行事予定	
4月4日	新入生オリエンテーション
4月5日	新入生研修
4月6日	在学生春学期オリエンテーション
4月7日	入学宣誓式
4月22日	オープンキャンパス
5月14日	オープンキャンパス
6月11日	オープンキャンパス
7月16日	オープンキャンパス
7月31日～8月12日	春学期定期試験
8月11日	オープンキャンパス
9月9日～10日	教育進路懇談会（本学）
9月19日	在学生秋学期オリエンテーション
10月1日	オープンキャンパス
11月11日～12日	青澄祭（大学祭）
12月23日	第1回合格者説明会
1月13日～14日	大学入学共通テスト
1月22日～2月3日	秋学期定期試験
2月23日	第2回合格者説明会
3月17日	オープンキャンパス
3月24日	オープンキャンパス
3月25日	学位記授与式

## 学生数・教職員数

### ■在籍学生数

(令和5年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		取容定員	在学者数				
			留学生	社会人		留学生	社会人			
大 学 院	薬学研究科（博士一貫）	3	2	0	0	12	3	0	0	
	薬学研究科（博士）	5	2	0	0	15	2	0	0	
	危機管理学研究科（博士）	3	1	0	0	9	4	0	2	
	危機管理学研究科（修士）	10	12	4	4	15	25	4	13	
	看護学研究科（修士）	5	3	0	3	10	6	0	6	
大学院 計		26	20	4	7	61	40	4	21	
学 部	薬学 部	薬学科（6年制）	100	36	11	0	680	364	97	2
		計	100	36	11	0	680	364	97	2
	危機 管理 学 部	危機管理学科	120	62	25	0	480	362	188	1
		保健医療学科	80	34	2	0	320	225	15	0
		航空技術危機管理学科	40	26	6	0	160	113	21	0
		動物危機管理学科	60	30	0	0	240	142	13	0
	計		300	152	33	0	1,200	842	237	1
	学 部 看 護	看護学科	90	40	0	0	340	282	0	0
		計	90	40	0	0	340	282	0	0
	学 部 計		490	228	44	0	2,220	1,488	334	3
総 合 計		516	248	48	7	2,281	1,528	338	24	
留学生別科		40	2	2	0	40	6	6	0	

※社会人は社会人入試にて入学した学生数

(単位：人)

※留学生は在留資格「留学」を有する学生数

### ■卒業生数等一覧（令和5年度）

区分		修了者・ 卒業生	満期退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	1	0	1	1	100.0%	0	0	1	2
	修士	9	0	8	8	100.0%	1	3	1	6
学部		364	0	252	249	98.8%	15	45	20	118
別科	留学生	3	0	0	0	0%	3	1	0	2

※修業年限を超えて在籍している学生数（令和6年4月1日現在）

主な就職先	<p>薬学部：イオンリテール、旭中央病院、神栖済生会病院、杏林堂薬局、クオール、日本医科大学 千葉北総病院、日本調剤</p> <p>危機管理学部：福島県庁、日本航空、足立区役所、市原市役所、警視庁、東京消防庁</p> <p>看護学部：旭中央病院、神栖済生会病院、東千葉メディカルセンター、国立がん研究センター東 病院</p>
-------	--

### ■教職員数

(令和5年5月1日現在)

学長	副学長	教授*	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	2	58	22	16	10	2	1	112	50

※学長・副学長除く

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和5年度 予算額	令和5年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	2,283,946	2,220,859
		経常費等補助金	240,727	225,091
		その他収入	121,881	157,348
		計	2,646,554	2,603,298
	支出	人件費	1,891,251	1,885,084
教育研究経費		1,087,711	1,025,116	
管理経費		256,683	276,778	
その他支出		0	684	
教育活動収支差額			△ 589,091	△ 584,364
教活外	収入	受取利息等	5	2
	支出	借入金利息等	793	793
	教育活動外収支差額		△ 788	△ 791
経常収支差額			△ 589,879	△ 585,155
特別	収入	資産売却差額等	720	1,171
	支出	資産処分差額等	0	2,958
	特別収支差額		720	△ 1,787
基本金組入前収支差額			△ 589,159	△ 586,942
基本金組入額合計			△ 284,708	△ 117,973
当年度収支差額			△ 873,867	△ 704,915

### ■財務改善に向けた取組

- ・コロナ禍によりオンライン会議が浸透し、令和5年度においてもオンライン会議を基本とする方針を継続したことで旅費交通費支出を削減した。
- ・一方で募集活動は必要に応じて出張するが、令和4年度同様に出張者は目的に応じて適切かつ最小の人数とした。また、大学進学ガイダンスについては、積極的に参加し、進学希望者との対面説明を重視した。ガイダンスでの説明者は、教員が中心になって行うことによって、よりの確な面談を行えた。
- ・教員研究費については傾斜配分を導入する計画であったが、適切な配分要件の適用に苦心したため、次年度以降の課題となった。
- ・外部資金採択経験のある教員が講師となって研修会を行うことによって、新しい外部資金を獲得することができた。
- ・施設設備の改修は、緊急性の高いもののみ実施した。

### ■施設設備整備報告（抜粋）

経年劣化による施設設備の改修については、緊急性の高いものから順次計画的に実施した。順延になっていた薬学部棟空調機等改修工事【1期】は令和5年度に実施し、完了した。また、令和4年度に一部実施したマリーナキャンパス舗装工事については、令和5年度に残存部分の一部を実施し完了した。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
薬学部棟空調機等改修工事【1期】	259,590
マリーナキャンパス舗装工事	7,900

主な装置・設備関係

(単位：千円)

事業名	金額
第7期ネットワーク基盤システム整備	22,500